

インターバンクの声（2017 年 4 月 13 日）

5 カ月ぶりに 110 円を割り込んだドル円だが、109 円台での滞空時間は丸一日と数時間しか持たず、簡単に 108 円台まで円高が進んだ。

シリアや北朝鮮をめぐる地政学的リスクへの警戒感が強いことが根底になっているが、トランプ米大統領が米紙ウォール・ストリート・ジャーナルのインタビューで、ドルが強くなり過ぎており、いずれドル高が米経済に打撃を与えるとの考えを示したとあってはドルを売るしかない。

モスクワで開かれていたティラーソン米 국무長官とロシアのラブロフ外相によるシリア問題や対テロ戦での会談で歩み寄りが見られたとして、一時は 109 円 80 銭台までドルが買い戻されていただけに、トランプ大統領のドルが強過ぎるとの発言はドルの売り戻しへの強い衝撃となった。

ただ、トランプ大統領がドル高に不満を持っているのではとの懸念は市場が以前から抱いていたことでもあり、やはり足元では米国の北朝鮮に対する行動の有無や仏大統領選挙の第1回投票などといった政治材料を注視することが大事だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。